

第1回 高山本線ブラッシュアップ会議 議事概要

【日時】 令和3年3月30日（火）10:00～11:00

【場所】 富山市役所議会棟8階 第4委員会室

【議題】 (1) 高山本線ブラッシュアップ会議の設置について
(2) 高山本線の現状について
(3) 今後の進め方について

【出席者】 委員3名（敬称略）

所属	職名	氏名	備考
富山市	副市長	三浦 良平	
富山県 観光・交通振興局	局長	中谷 仁	
西日本旅客鉄道株式会社 金沢支社	副支社長	森下 智文	

【議事要旨】

(1) 高山本線ブラッシュアップ会議の設置について

○「高山本線ブラッシュアップ会議 規約」が承認された。本会議は3者が各々の知見や情報を持ち寄り前向きで対等な議論をするものであることを確認した。事務局は富山市交通政策課が務める。

○本会議の主旨として、交通事業者と行政がワンチームとなり、富山県内はもとより全国的に地域鉄道が直面する課題解決のモデルケースにつなげることを目標に議論を進めていくものであることを確認した。

○更なる利便性向上、鉄道ネットワークの強化に向けた方策について、令和4年度中のとりまとめを目指すことを確認した。

(2) 高山本線の現状について

○富山市、富山県、JR西日本の各者から資料提示があり、これまでの高山本線活性化に関する取組や乗降者数の推移について説明を行った。

- ・富山市からJR高山本線活性化事業について説明
- ・富山県から高山本線における特急ひだ利用実態調査について説明
- ・JR西日本から高山本線の現状について説明

各者の説明を受け各委員より次の意見があった。

○活性化事業に伴う運行本数の増便や新駅の設置等による利便性の向上により、利用者の増加は明らかである。更なる利便性の向上方策については、実現の可能

性や実現へ向けた課題解決について、3者で知見や情報を持ち寄り今後議論していく必要がある。

○交通事業者として、更なる利便性向上には相応の費用負担があることに加え、近年の新型コロナウイルスによる利用者数の減少や少子高齢化が進む状況の中、収支採算性の観点から利便性向上に資する投資は慎重に検討していく必要がある。本会議では、まちづくりと連携した利便性向上の検討や公共交通ネットワークの向上の検討を各自治体と協力をしながら議論していきたい。

○これまでの活性化事業の効果として、利用者が増加し周辺沿線の人口が増加傾向にある中、更なる活性化のことを考えると減便といった消極的な考え方よりも、パターンダイヤ等のダイヤ改善による利用者増加の期待をする前向きな検討もあるのではないかと。

○駅や駅周辺のインフラ整備が土地の効用を高め地価の上昇に繋がる事例を踏まえると、鉄道の利便性を向上させることは都市の発展に極めて重要である。また、自動車を利用できない市民に対して生活の足を確保でき、外出することで結果的に健康寿命の延伸に繋がる等の副次的な効果があると期待できる。

○将来、少子高齢化がさらに進むこと、新型コロナウイルスをきっかけとして働き方や通勤の方法が変わること、インバウンドや交流人口の回復の見込みが不透明なことを踏まえると、従来の活性化施策を継続するだけでは十分ではないことを踏まえ、中長期的な展望を見据え、負のスパイラルに陥る前に打てる施策はないか、各者で議論していくことが必要である。

○インバウンド増加等の観光利用促進の観点と利便性向上等の公共交通活性化の観点の2点の最適化を図った施策を検討する必要があるのではないかと。

○これまでの高山本線の利用実態を各者のデータを活用しながら更なる分析を行い、現状の理解をより深めることで新たな施策立案のヒントになるのではないかと。

(3) 今後の進め方について

○本会議は年2回程度開催することについて確認した。

○次回の会議では、更なる利便性向上や鉄道ネットワークの強化に向けた方策について、施策の洗い出しや課題の整理を行う予定である。

以 上